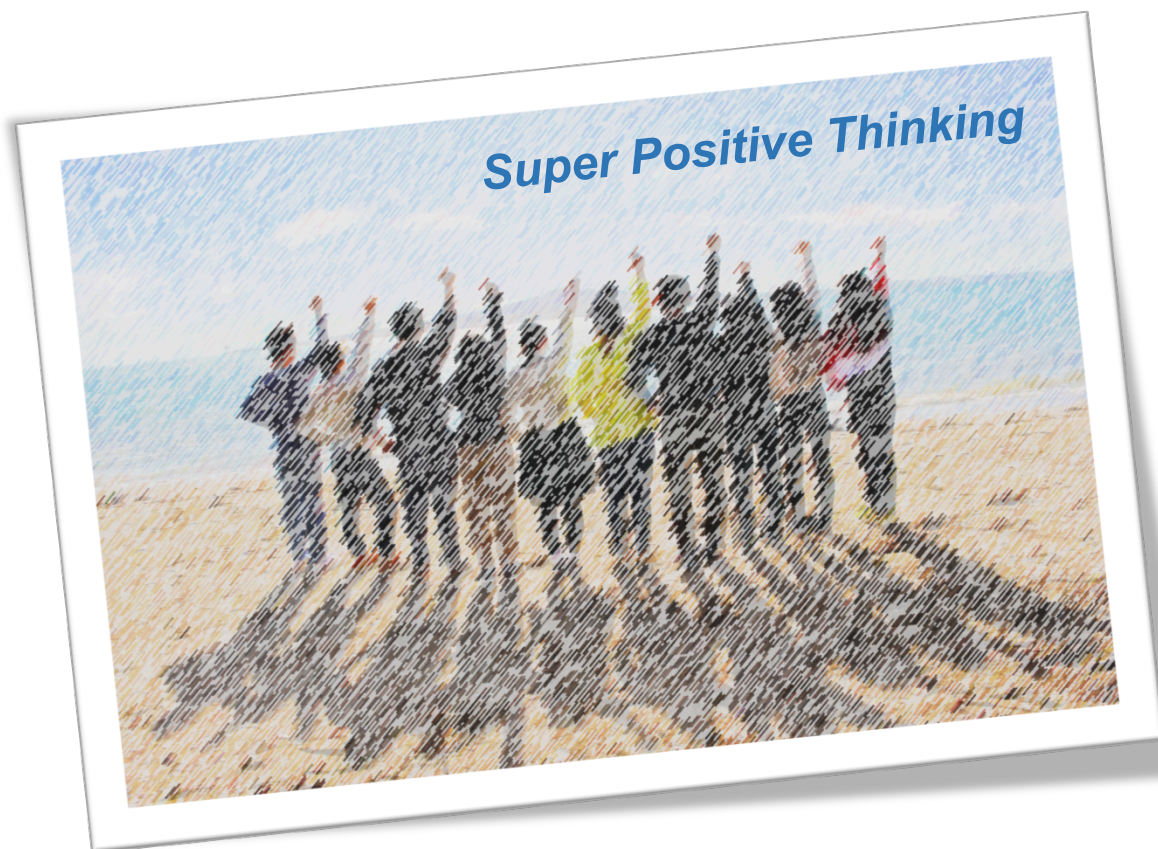


New Zealand Homestay 2015

PHOTO REPORT



行程／プログラム

日程			午前	午後	宿泊先
Day1	7/30	木	東北→東京移動	事前研修会 in オリビックセンター	オリビックセンター
Day2	7/31	金	事前研修会	成田空港移動 NZ90便（成田空港18:30発）	機内泊
Day3	8/1	土	NZ空港（オークランド）着 8:20着 ※フライト時間:10時間50分 Ken Moses氏のバスで学校に移動 マウントアルバートグラーマースクールでホストファミリーと対面	ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
Day4	8/2	日	ホストファミリーと過ごす		ホームステイ
Day5	8/3	月	マウントアルバートグラーマースクール初登校 ホフイリ（マオリ語で歓迎会の意）、ハステイ対面		ホームステイ
Day6	8/4	火	学校生活（マウントアルバートグラーマースクール）、ファーム体験		ホームステイ
Day7	8/5	水	学校生活（マウントアルバートグラーマースクール）		ホームステイ
Day8	8/6	木	9:00 学校出発（Ken Moses氏のバス） オークランド市内観光 （スカイタワー、ミッションベイ、パーガーマン・フェイル）	ハミルトン市に移動 Zeal long Tea茶園見学、アフタヌーンティー ワイカトタイムズ取材、ハロウィーン誕生日パーティー <u>震災プレゼン①、すずめ踊り①</u> 17:00 学校着、解散	ホームステイ
Day9	8/7	金	学校生活（マウントアルバートグラーマースクール） 感謝の会（ <u>震災プレゼン②、すずめ踊り②</u> ）		ホームステイ
Day10	8/8	土	クライストチャーチへ移動 NZ517便（オークランド 空港11:35発）	クライストチャーチ空港12:55着 Owen氏のバスで学校に移動 リンカーン高校でホストファミリーと対面	ホームステイ
Day11	8/9	日	ホストファミリーと過ごす		ホームステイ
Day12	8/10	月	学校生活 （リンカーン高校、 <u>震災プレゼン③、自己紹介（名前、趣味）①、Jupiter歌唱、合気道①</u> ）		ホームステイ
Day13	8/11	火	9:00 学校出発 ファーム体験（羊の毛刈り） アン・ケネディ前駐日NZ大使、節子夫人面会	カンタベリー大学訪問（荻野先生、日本語クラス生徒コミュニケーション、 <u>震災プレゼン④、すずめ踊り③</u> ） Saint Bedes訪問（大畑勇太君面会） 南極センター訪問 クライストチャーチ市長表敬（リアン・タムズール市長、 <u>震災意見交換、すずめ踊り④</u> ） 17:00 学校着、解散	ホームステイ
Day14	8/12	水	学校生活（リンカーン高校、マオリ文化体験、ニュージーランドのエネルギー政策、現地生徒取材、ランチ交流会、 <u>すずめ踊り⑤⑥、震災プレゼン⑤、自己紹介②、折り紙、合気道②③</u> ）		ホームステイ
Day15	8/13	木	学校生活（リンカーン高校）、クライストチャーチが一望できる丘、Restart mall、クライストチャーチ被災地慰問紙の教会、小学校訪問（ <u>すずめ踊り⑦</u> 、ハカ鑑賞）		ホームステイ
Day16	8/14	金	学校へ集合し、学校からOwen氏のバスで空港へ NZ500便（クライストチャーチ5:40発/オークランド7:00着）→NZ99便（オークランド8:20発/成田空港16:50着） ※フライト時間：11時間30分 東京駅でゆりとお別れ		機内泊／オリビックセンター
Day17	8/15	土	10:00-11:30 解散式 in オリビックセンター	解散、東北へ	—

*震災プレゼンテーション5回、すずめ踊り7回

現地の様子 オークランド市

ホストファミリー／バディ



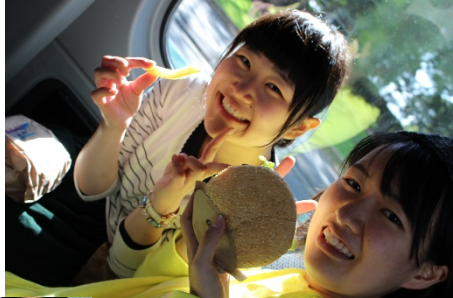
マウントアルバートグラマーハイスクール



Support Our Kids
ひとりじゃないよ

現地の様子 オークランド市

市内観光



Zealong tea



Support Our Kids
ひとりじゃないよ



現地の様子 クライストチャーチ市

ホストファミリー／バディ



リンカーンハイスクール



カンタベリ大学交流



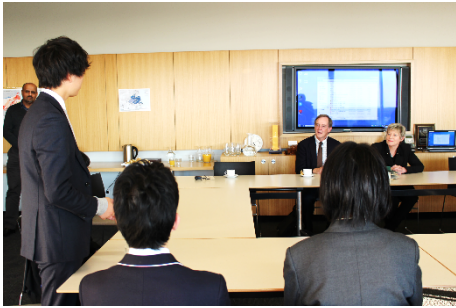
大畑勇太くん交流



Support Our Kids
ひとりじゃないよ

現地の様子 クライストチャーチ市

クライストチャーチ市長表敬



クライストチャーチ被災地慰問



クライストチャーチ市内見学



小学生との交流



事前研修、解散式、メディア等

事前研修会



解散式



取材等



【新聞】

- ・ワイカタイムス
- ・ハミルトン・プレス

【Facebook】

- ・クライストチャーチ市長
- ・Zealong tea

【HP】

- ・マウントアルバートグラマー・ハイスクール

【学内通信】

- ・カンタベリー大学ニュースレター

ホストファミリー、参加生徒の感想

なっちゃん バイオレットへ

ヒカリとなつぽにメッセージを送ります。まず最初に君達に会ったのは、家とは別の場所で、今僕は仕事だからこのインターナショナル・オフィスにいます。だから、家の中をパジャマで歩き回っている姿とは全然違うと思います。もし君達とこのオフィスで会ったとしても、ここには僕の家族もいるんだよ。見てごらん。これは少し前の写真だけどゾーイとエイミーの写真だよ。ジョーイもここにいるし。3人に代わって、もちろん僕もだけど、君達と過ごせてどんなに楽しかったか。君達に出会って、君達のこと分かってきて、一緒に楽しんで、マウントアルバートを見て回ったり、それに、我が家の猫ジョージに会って、ちょっと変わった猫でしょ。ジョージの写真も撮っていたよね。ジョージのこと忘れないでね。もちろん、僕の家族もだけど。ここで楽しんだことは思い出に残っているでしょう。本当に君達と出会えて良かった。これからの君達の将来が素晴らしいものになることを期待しているし、君達ならいつでも大歓迎だよ。クライストチャーチでも素晴らしいご家族と出会えることでしょう。NZでの残りの時間を楽しんでね。あと、これからも連絡を取りあえたらと思います。将来君達がどうゆう大人になって行くか、写真もメールで送ってね。そして、いつの日か再会できることを楽しみにしています。それに、いつか子ども達と日本へ行ければと思っているんだ。日本は大好きな国だし。子ども達も日本語を習いたいはずだよ。なぜかって。君達がいるからだよ。だからいつか日本で会いましょう。本当に来てくれてありがとう。ここを離れていくことは寂しいけど、本当に君達に出会えてハッピーだよ。ありがとう。

Ian Cole



わたしが、このホームステイプログラムに志望した動機は、Support Our Kidsの「ひとりじゃないよ」という言葉にひかれたことと、人とのつながりをひろめたいこと、そして、このホームステイで学んだことを地域の復興の為に活かしたいからと応募用紙に記入しました。(中略) 私はずっと、「他人なんていないんじゃないか」と思っています。震災の時に私たちを支援してくださったのは、世で「他人」と言われそうな、たくさんの心温かい人たちでした。相手は自分の名前だって知らないのに、困っているから助けようという一心で、力を貸してくれたのだと思います。(中略) そして今回ホームステイをして、「他人なんていない」という想いは、確信に変わりました。ホストファミリーや学校で出会った人たちなど、本当に何も私の事を知らないし、私は英語も話せないのに、どこまでも優しくかったです。ホストファミリーは、少しでも私のことを知ろうとしてくれて、私が困っていると優しく手を差し伸べてくれました。別れを惜しんでくれたのが本当に嬉しかったです。やはり他人なんかいません。今回のホームステイプログラムで得たコミュニケーション能力を、たくさんの人と関わる上で発揮したいです。

石巻市・中学三年・勝又なつほ

被災地慰問では、クライストチャーチ市内を見学しましたが、正直これほど復興が進んでいないとは思いませんでした。道路には亀裂がいまだに走り、建物は壊れたままだったり、骨組みがむき出しになっていたり、想像以上でした。自分にとっては、この日見た様々な風景が、ニュージーランドで過ごした2週間の中で、最も衝撃的なものでした。震災以前の生活を取り戻しつつあると言っても両国ともにまだまだ復興はこれからなんだな、と強く感じました。その後、市長訪問を行い、ニュージーランドと日本のつながりを現地の方々の説明や市長への直接質問などを通して、実感することができました。この日の出来事は、震災復興の一環として留学している自分にとって、改めてその意義を認識するものであったし、自分自身これから何ができるかを、考えていかなければという自覚と使命感のようなもので、胸がいっぱいになりました。とても身の引き締まる体験でした。 仙台市・高校三年・福来建紀

